

2022年度（令和4年度） 事業報告書

2023年2月

滋賀県大津市大萱六丁目1

総合型地域スポーツクラブ

特定非営利活動法人瀬田漕艇倶楽部

代表理事 田中 彰



2022年5月 全日本選手権

[1] 2022年度活動報告

1 特定非営利活動

2022年度定期総会にて以下の目標を掲げ、年間活動に取り組んだ。

1. 全体 50周年記念事業の準備に具体的にとりかかる。また倶楽部理念や建設の趣旨に沿ってFurukawa Houseを始めとした倶楽部施設の活用を再検討・実践し、世代を超えた会員間の交流や他団体との交流を活発化する。そのためにはコロナ禍での新たな事業計画・倶楽部運営体制を整え、特に若い世代の新規入会を促進する。また認定NPO法人への再認可へ尽力し、賛助会員の拡大策の検討を軸に財務状況の健全化を目指す。
2. 安全 (1) 安全規則の随時見直し(初版2005年)。
(2) 安全講習会実施、沈回復の練習会の実施。
(3) インシデント・アクシデントレポート作成の推進。
3. 保全 整理整頓という基本的な事を皆で行える様、まずはあるべき姿を管理、そしてそれを維持する所から取り掛かる。またクラブの設備・備品で経年劣化して来ているものについて、皆でそれらに対する情報や意識を共有できる様になる。
4. 施設 老朽化した所の対応、使い勝手を見直した修繕計画と備品購入計画。
5. 事務 各担当者との連携による円滑な事務作業。事務局のあり方検討とより良い倶楽部運営への貢献策
6. 特別 びわこ市民レガッタの参加者100クルー(500人)以上。地元企業、自治体、自治会から募る。Head of The Setaの参加者800人以上。各ボート団体への個別交渉。
7. 普及 ボート・ドラゴンボート・カヌーの体験教室をクラブ全体で運営し、年250人を目標とする。新たな普及活動を検討・実行していく。
8. 収益 ウェブを活用して、年間50万の収益確保に取り組む。
新たな収益財源確保に向けて具体案を検討する
9. 財務 会計フローの整理・定着化。各理事との連携を強化する。
10. 広報 月一回の確実な会報発行。
11. 活動 倶楽部運営収支100万円、NPO事業収支200万円、収益事業収支50万円の計350万円の現金収支を確保するため、各方面での工夫だけでなく新たな施策を計画・実行する。
選手チームは全日本選手権でのメダル獲得を目標としながらも、次世代を担う選手層のメンバー獲得にも取り組む。杉藤コーチの指導のもと、競技力強化、魅力ある選手チーム作りを一層推進する。また各種コーチセミナーや、地域および他団体との交流の機会を積極的に展開する。

【総括】

2022年度もコロナウイルスの影響を受けた1年であった。倶楽部活動の自粛は行わなかったが練習後の消毒、FurukawaHouseでの団らんへの規制等には倶楽部会員には大変なご負担をかけつつも、ご理解・ご協力いただいた。また日常の保全・整備面においてはマスターズの会員を中心に清掃、修理等を実施したが、これらのご尽力には非常に感謝している。その中で倶楽部としては年度始めに掲げた目標を会員一丸となって進めたが、以下の4点については特に素晴らしい成果であると考えている。

1点目には感染対策に注意しながら倶楽部事業の実施が出来たことだ。残念ながら台風接近で中止になったが3年ぶりにびわこ市民レガッタを開催すべく準備を行った。またHead Of The Setaでは昨年度よりも参加クルーを増加させ、かつJARAからの要請を受けて日本代表合宿への参加選考会を併催した。多くの倶楽部員が運営に参加いただいたことには改めて御礼したい。新年度も様々な倶楽部事業を実施予定であり、今まで以上の運営への参加、知恵・経験を結集した協力をお願いしたい。

2点目は競技活動においてシニアチーム中心に素晴らしい実績を挙げてくれたことだ。全日本選手権女子1×において西原選手が倶楽部として2連覇を達成し、その後に日本代表としてW杯に参戦した。岡田選手は男子1×で朝日レガッタ優勝、全日本選手権および全日本社会人で3位入賞した。また国体でも西原選手と山領選手が入賞した。また山領選手と椎名選手はコースタル世界大会に日本代表として出場した。このように設立当時から掲げている「チャンピオンクルーから日曜スカラーまで」を実現した年であったと言える。今後もシニアチーム中心に切磋琢磨の環境を整えながら「チャンピオンクルーの育成」の取り組みを着実に前に進めていきたい。

3点目は対外的な体制づくりを進められたことだ。総合型地域スポーツクラブの再認証を獲得し、認定NP

〇法人への再認可へ尽力した。さらに新規の賛助会員の獲得を軸に財務状況の健全化を目指し、新たに法人賛助3社の獲得、および認定NPO法人の再認可申請への必要な個人賛助要件を満たすことが出来た。

4点目は近未来の倶楽部に向かって倶楽部内の仕組み再編に着手したことだ。50周年記念事業の準備として予算規模の検討を開始し、具体的な事業については実行委員会を組織して議論を進める方針を決定した。また倶楽部理念や建設の趣旨に沿って施設の活用を再検討し、個人艇管理の方法改善や世代を超えた会員間の交流や他団体との交流活発化をめざした。

一方ではコロナ禍での新たな事業計画・倶楽部運営体制を整えるため、特に若い世代の新規入会の促進を心がけたが、若年層の入会推進には課題が残った。2022年末会員数は、正会員133名（家族会員24名）、賛助会員72名。昨年度末から正会員は7名減少。昨年度と同じくコロナウイルスの影響で新入会員の入会が少なかったと考えられる。財務面で2022年度のNPO事業は▲139万円の赤字予算であったが、滋賀県持続化給付金等の助成金、法人賛助の増加により243万円の黒字で締めることが出来た。50周年に向けた一層の資金確保は引き続き取り組みたい。

第17回びわこ市民レガッタ

今年度は、台風14号による暴風警報の発令が予想されたため中止した。

大会自体は中止を余儀なくされたが、大会の運営のスリム化を図り、少ない労力で開催を続けていける工夫をおこなった。

しかし、今年度の参加クルー数は前回開催時(2019年)の91クルー数に対して48クルーであり、ほぼ半減している。これが一昨年、昨年のコロナ禍による中止が続いた影響だけによるものであれば、今後持ち直す可能性があるが、常連参加者の高齢化による参加辞退もあり、大会開催を維持するためには今後継続的に参加者を増加させる必要がある。この問題が最大の検討課題である。

また、今回の中止は当日早朝の判断となり、参加者はもとよりスタッフとなるクラブ員の皆さま方に多大なご迷惑をおかけしたことを深く反省している。今後このような事態が考えられる場合には遅くとも前日中には開催の可否を判断できるよう、判定基準を見直していかなければならない。

今年は第18回大会となり、10月8日の開催を予定している。次回こそ多くの方が参加できるように運営案を練り上げていきたい。

また、クラブ員の皆さまには、練習会・準備へのご対応と当日のスタッフ従事へのご協力を、よろしくお願いします。

(1)ボート等競技大会開催或いは開催支援活動

① ボート競技大会開催

第30回 Head Of The Seta

11月12.13日両日に渡り開催。2日間で延べ199クルー/487名のエントリーを集め開催。

また、JARAからの依頼を受け、シニア、U23の来年度日本代表選考合宿に進むための選考トライアルも併催。男子は荒川選手、女子は米川選手がトップタイムであった。

当倶楽部からは西原選手が選考会女子の部1位、岡田選手が選考会男子の部2位となったほか、山領選手が2種目1位と倶楽部員の皆さままで9種目で1位となった。

開催にあたっては、コロナ感染防止上から倶楽部艇の借艇なし、懇親会なし等の密をさけ、感染防止に注力し開催。前年度の皆さまからのアンケート等より、水上、陸上監視者からの連絡の一本化、水上監視者の毛布準備等改善を実施。

高齢者を中心に何件かの沈はあったが、接触事故等の大きな事故等なく無事に開催出来た。

収入：1,230千円、支出450千円、利益780千円

第31回は11月11日12日が開催予定。倶楽部員が2日の内1日は出場出来るようにしたい。そのために

は多くの会員の方の参加、協力が必要。

また、準備においても多くの倶楽部員の協力が必要であり、声がかかった場合は是非ともご協力願いたい。

② ボート競技会等開催支援活動

ボート競技会等の開催支援

滋賀県県民体育大会、高校秋季総体等のボート競技会に審判を派遣した。

(2) ボート競技の指導等・普及に関わる事業活動

① セミナー・講習会の開催

2022朝日レガッタコーチセミナー兼公認スポーツ指導者義務研修会

新型コロナ対策で朝日レガッタが無観客開催であったことに伴い、コーチセミナーも実施せず。

③ 水上スポーツ教室の開催等

初心者ボート体験教室（2022年5～11月毎月第2、4日曜日）

検温、手指消毒などコロナ感染予防をしながら実施した。

昨年未実施だったこともあり、開催を心待ちにされていた体験者もいて好評であった。

また、びわこ市民レガッタも開催となり練習会も実施され、徐々に賑わいを取り戻してきたところであったが、台風接近により残念ながら中止となった。

しかし、利用者はのべ112名とコロナ前とほぼ同様となった。初心者の方にはエルゴメーターによる基本動作の練習と艇の基本的な扱いを説明した後に実際に乗艇を体験してもらい、ローイングの楽しさや湖上からの眺めを楽しんでいただいた。

なお、ドラゴンボートについては23名に利用いただき、こちらもコロナ前と同様になった。

2023年度は更に体験を通じて水上スポーツの魅力を伝え、幅広い年代の会員増につながることを期待したい。

（収入実績：2019年約22万円、2020年約7万円、2021年約6万円、2022年約8万円）

ドラゴンボート体験（セタシジミ祭）

2022年の「セタシジミ祭」は、新型コロナウイルスの影響により中止となった。

ジュニアボート教室

滋賀レイクスターズとのコラボレーションで実施していた小学生対象のボート教室を昨年4月よりレイクスターズ主催により実施。当倶楽部は用具、場所の提供のみとなる。土曜日午前中には小中学生向け、月曜日、木曜日夕刻より中学生向け教室開催。

収入実績：2022年 510千円

(3) 水上スポーツ活動の支援

安全管理に関する活動

① 安全講習会の開催（4/29） 出席者計48名

実際に琵琶湖で起きた事故を元に、安全なクラブ活動を再度呼びかけ。

琵琶湖における航路の確認と瀬田川航行ルールの確認。

特に水管橋付近の航行について詳細を再確認。

② 沈回復練習会（5/8・7/3）については有志による実施。

③ 琵琶湖漕艇場からの注意喚起メールを会員に転送。

→瀬田川及び琵琶湖での工事や藻刈り作業、及び洗堰の全開放流時の連絡。

④ 水上事故のフォロー

⑤ AEDの作動点検と部品交換

安全講習会

県ボート協会主催の安全講習会にリモート団体参加。(12/10)
フルカワハウスにて20名参加

アクシデント・レポートの作成(随時)

【アクシデントレポート】

1. 水上、陸上を問わず、漕手舵手が負傷した事故
2. 水上において他艇あるいは他物との衝突及び接触
3. 艇の沈没
4. 損害の有無を問わず、外部の救助を仰いだ事故

【インシデントレポート】

1. 上記4項目に準じる事故、及び、事故の一手手前で
「ハッとした」事象が起きた時

⇒ いずれもクラブ内での共有化が今後の課題

安全規則

【琵琶湖と瀬田川の境界線での航行について】

滋賀県安全対策会議で作成された目安図を掲載

【舵手なし艇の乗艇について】

「10.舵手なし艇乗時におけるステアリング担当者は、操舵技術だけでなく判断能力や空間認知能力がより必要であることから認定を受けた者だけが担当できることとする。認定については安全担当理事へ申請、認定を受けること。」を追記

平日シニア組の冬期乗艇自主ルールについて

練習中に仲間を亡くすという悲しい過去の経験を二度と繰り返したく無いという思いから、平日シニア組は冬期における乗艇自主ルールを策定し、守って頂いています。

(4) ボートに関する情報発信

クラブの月刊機関紙「漕艇通信」(会報)の月末発行、ホームページを活用した情報発信等を行い、クラブの活動に関する最近の情報を提供した。引き続き、「漕艇通信」はホームページ上で公開している。

(5) 選手競技活動

2022年度は海の森水上競技場にて全日本選手権が開催され、倶楽部から出場の全選手が最終日までレースを行った。現在、倶楽部には国内トップクラスの選手が数名在籍しており、そこから良い刺激を受けながら互いの競技力向上に努め、さらに上の成績に繋げていきたい。一方でここ数年は選手の入替わりが多く、継続して選手活動を行う人材の発掘、サポートを模索していきたい。

(6) その他の活動

①プロコーチ杉藤氏によるコーチング

年額50万円(年50セッション以上+しがスポーツ大使)を毎月按分する形で、杉藤コーチに支払い。マスターズ分は個別依頼・支払い。4月よりJrボート教室はレイクスターズ様主催により実施。月、木、土中心に3回/週開催、倶楽部としては用具・施設の提供として協力。

②全員集合日の実施

月例全員集合日を実施した。施設(艇庫、船台、水路)整備、芝かり、艇整備を中心に市民レガッタや

ヘッドの事前・事後整理などを行いながらクラブ員相互の懇親がはかれた。

③施設関連実施事項

2022年度実施工事関係

日常のメンテナンスを実施、各所不具合対応、備品の購入

ニュージーランド代表オール、記念ユニフォーム設置

艇整備用のポリッシャー、高圧洗浄機購入

船台床張替え 2tトラック用鉄骨架台製作納入

男子トイレウォシュレット交換など

④大会への役員派遣

関西ボート連盟、滋賀県ボート協会、京都ボート協会、大阪ボート協会、大津市ボート協会等主催の大会にて、役員活動を行なった。

⑤メディア出演等

2月 5日 京都新聞18頁 スポーツ面 国際レース挑み世界に近づく 琵琶湖拠点トレーニング

※西原選手を紹介

4月 9日 FMおおつ「かずみんの【この人に聞きたい】」 ※田中代表が倶楽部を紹介

5月 2日 朝日新聞17頁 滋賀面 「競技のシビアさのめりこみ」 ※嶋選手を紹介

5月 3日 朝日新聞21頁 滋賀面 「五輪でコーチ一つでも上へ」 ※坂本(剛)さんを紹介

5月 5日 朝日新聞10頁 スポーツ面 「岡田 先頭も夢も譲れない」 ※岡田選手を紹介

5月 5日 朝日新聞15頁 滋賀面 「父と子 湖上の熱戦」 ※田中彰さんを紹介

5月 5日 京都新聞18頁 スポーツ面 「先月のレース教訓に」 ※岡田選手を紹介

5月23日 京都新聞 スポーツ面 「逆転 仲間がいるから」 ※西原選手を紹介

6月 8日 毎日新聞18頁 滋賀面 「ボート・西原選手が2連覇」 ※西原選手を紹介

8月10日 フジテレビ めざましテレビ(全国放送) キラビト ※西原選手を紹介

9月19日 中日新聞 地域面 びわ湖レガッタ ※健ちゃんズを紹介

10月5日 京都新聞21頁 栃木国体準優勝 ※西原選手を紹介

2 収益事業活動

朝日レガッタでのライブストリーミングを受注。大会期間中の出店用地斡旋2社と前年度対比は改善。出店用地の規制等があり出店先も少なく、当倶楽部の関連事業(Tシャツ販売、出店)もなく見込み収益得られず。Webサイトを昨今のEコマースに対応させることは費用もかかり現実的ではなく、そのため、その他の販売も低調だった。実質的に会員向けのクラブ製品の販売などにとどまった。

粗利230千円であるが共通経費と管理費、法人税を差し引くと、収益事業は7万円とわずかにプラス。従来通りの事業継続の可否も視野に入ってきた。商品販売ではMR大会後のエルゴ販売がなくなったのが痛手である。倶楽部独自の事業が必要となっている。

2022年活動まとめ

実施時期	実施場所	事業名	倶楽部員 従事人数	受益対象者
1月中旬 (新型コロナで中止)	滋賀県立体育館	Japan Indoor Rowing		
2/27(日)	瀬田漕艇倶楽部	定期総会	出席29名 委任55名	正会員145名
4月下旬 (新型コロナで中止)	瀬田川	第36回セタシジミ祭 (ドラゴンボート体験)		
5月上旬 (新型コロナで中止)	瀬田漕艇倶楽部	コーチセミナー		
9/18(日) (台風により中止)	琵琶湖漕艇場	第17回びわこ市民レガッタ		参加者48クルー (エントリー数)
11/12(土)-13(日)	瀬田川	第30回Head Of The Seta	延べ120名	2日延参加者199クルー (487名)
5~11月 第2,4日曜日	瀬田漕艇倶楽部 琵琶湖漕艇場	初心者ボート体験教室		一般市民約112名

倶楽部会員数

	会員数 2021年12月31日	1年間の入会数	1年間の退会数	会員数 2022年12月31日
正会員(家族会員)	140 (22)	13 (0)	20 (0)	133(22)
賛助会員	70	6	4	72
合計	210 (22)	19 (0)	24 (0)	205 (22)

2022年度競技活動結果

☆Asian Rowing Virtual Indoor Championships☆1月15日

女子オープン 西原 7分13秒4 優勝
軽量級男子75歳以上 安達 7分39秒7 優勝
軽量級男子60歳以上 中村(眞) 8分41秒4 優勝
軽量級男子40歳以上 狩谷 8分40秒4 5位
女子40歳以上 武良 8分13秒9 2位
軽量級女子40歳以上 坂本(春) 8分13秒5 優勝
女子40歳以上 武良(美) 1分45秒3 優勝 ※500m

☆2022年2月 2000mエルゴトリアル(日本代表候補選考)☆

シニア男子 岡田(滋賀レイクスターズ) 6分57秒0 56位
シニア女子 西原(プリントパック) 7分12秒5 4位 ※体重別%IDTで順位を決定

☆World Rowing Indoor Championships☆2月25日～26日

軽量級男子60歳以上 中村(眞) 8分35秒0 9位
女子40歳以上 武良(美) 8分13秒7 13位
軽量級女子40歳以上 坂本(春) 8分14秒9 3位
女子40歳以上 武良(美) 1分46秒6 11位 ※500m

☆日本代表候補最終選考レース予選タイムトライアル☆3月15日

軽量級男子1× 岡田(滋賀レイクスターズ) 11位 日本代表候補最終選考レースに進出
女子1× 西原(プリントパック) 4位 日本代表候補最終選考レースに進出

☆日本代表候補最終選考レース☆4月7日～9日

軽量級男子1× 岡田(滋賀レイクスターズ) B決勝2位(全体8位)
女子1× 西原(プリントパック) B決勝1位(全体7位) 日本代表クルー決定レースに進出
日本代表クルー決定レースの結果アジア大会女子2×代表に内定

☆西日本選手権☆4月23日～24日

男子1× 岡田(滋賀レイクスターズ) 優勝、山口(将) B決勝1位
女子1× 西原(プリントパック) 優勝、山領 4位、嶋 B決勝1位
男子2- 椎名 井原 B決勝5位
男子8+ 椎名 山口将 南條 西原 山領 岡田 井原※混成クルー 棄権(1本目2位)

☆朝日レガッタ☆5月1日～4日

男子1× 岡田(滋賀レイクスターズ) 優勝、山口(将) 5位、
女子1× 嶋 準優勝、坂本(春) 4位
女子2× 三島(島根選抜) 敗者復活2組3位
男子8+ 中村(眞) 南條 鈴木(順) 家村 根岸 高谷 井上(貴) 湯 坂本(剛) 6位
今村 狩谷 木所 宇野 今城 太田(俊) 田中(彰) 青木 奥城 敗者復活3位
吾郷(レジェンドK島根) 3位
男子1×50歳以上 安達 予選2組5位、渡辺 予選1組5位
女子ナックル40歳以上 太田(弘) 武良(美) 東(暢) 木下 尾崎(幸) 優勝
中西 中(さ) 上坂 竹内 長瀬 準優勝

☆全日本選手権☆5月12日～15日

男子1× 岡田(滋賀レイクスターズ) 3位、山口(将) C決勝5位(17位)
女子1× 西原(プリントパック) 優勝、嶋 C決勝5位(17位)

☆大津市民レガッタ☆5月22日

女子160歳以下 中(俊) 中(さ) 三登 竹内 長瀬 優勝
男子160歳以上 太田(弘) 青木 木所 佐々木(高) 尾崎(準) 優勝
中出 下村 永田 安達 今城 準優勝
中村(眞) 宇野 津村 松本(穂) 田中(彰) 3位

女子160歳以上 太田(弘) 武良(美) 東(暢) 木下 尾崎(幸) 優勝

女子240歳以上 中西 上坂 小島 盛田 中出 優勝

☆ねんりんピック☆5月28日

男子ナックルフォア 中村(眞) 青木 宇野 松本(穂) 狩谷 2位

☆全日本マスターズ特別大会☆5月28日～29日

女子2×E 長瀬 武良(美) 1位

女子2×F 盛田(道) 尾崎(幸) 1位

混成2×F 安達 武良(美) 1位

混成2×G 長瀬 植田 1位、尾崎(準) 尾崎(幸) 2位

男子4×+G 安達 下村 永田 大野 尾崎(準) 1位

女子4×+H 中西 太田(弘) 中出 安藤 1位

混成4×+G 太田(弘) 長瀬 永田 大野 中出 1位

☆2022 World Rowing Cup II☆6月17日～19日

女子2× 西原(日本代表)※榊原選手と出漕 全体14位 (C決勝2位)

☆滋賀県民体育大会兼滋賀県強化選考会☆6月18日

男子1×(選考) 岡田(滋賀レイクスターズ) B決勝1位、倉本 B決勝6位

男子1× 木村 3位

男子2× 近藤、須多 3位

男子1×40歳以上 黒田 1位、今城 2位

男子1×60歳以上 安達 1位、青木 2位、太田(俊) 3位

女子1×40歳以上 三登1位、長瀬 2位

男子2×60歳以上 尾崎(準) 尾崎(幸) 1位、深田 永田 2位

女子2×60歳以上 上坂 木下 1位、中西 太田(弘) 2位

☆京都ボート選手権大会兼国民体育大会ボート競技京都府選考会☆6月19日

成年男子1× 山口(将) 全体4位、家村 全体7位

成年女子1× 嶋 全体1位

☆茨戸レガッタ☆6月25日～26日

Joyフォア(4×+) 東(虎) 安藤 中出 中西 太田(弘) 2位

1×(40歳以上) 安達 1位、東(暢) 8位

チャレンジイト 安達 下村 尾崎(準) 4位、中西 中出 安藤 東(暢) 10位

木村(祐) 尾崎(幸) 太田(弘) 長瀬 13位

混成2× 尾崎(準) 尾崎(幸) 強風によりレース中止順位付かず

下村 木村(祐) 強風によりレース中止順位付かず

東(暢) 東(虎) 強風によりレース中止順位付かず

長瀬※札幌RCと混成 強風によりレース中止順位付かず

☆全日本社会人選手権☆7月2日～3日

男子1× 岡田(滋賀レイクスターズ) 3位

女子1× 山領 3位

女子4× 山領(戸田中央総合病院)※混成 優勝

☆関西選手権☆7月2日～3日

男子1× 山口(将) 5位、木村 準決勝6組4位

男子2- 近藤 須多 敗者復活2位

男子2× 根岸 吉村 敗者復活3組5位

女子4× 嶋※今治RCと混成 準優勝

男子1×40歳以上 田中(彰) 優勝、黒田4位

- ☆2022 World Rowing Cup Ⅲ☆7月8日～10日
 女子2× 西原(日本代表)※榊原選手と出漕 全体15位 (C決勝3位)
- ☆国体関東ブロック予選☆7月9日～10日
 男子4+ 椎名(群馬選抜) 3位※本大会進出
- ☆国体近畿ブロック予選☆7月17日
 女子1× 西原(京都選抜) 1位※本大会進出
 女子4×+ 嶋(京都選抜) 3位
- ☆国体中国ブロック予選☆7月16日～17日
 女子4×+ 三島(島根選抜) 3位※本大会進出
- ☆国体四国ブロック予選☆7月17日
 男子4+ 井原(香川選抜) 3位
- ☆国体九州ブロック予選☆7月23日～24日
 女子1× 山領(福岡選抜) 1位※本大会進出
 女子4×+ 岩留(鹿児島選抜) 4位
- ☆オックスフォード盾レガッタ☆9月10日～11日
 男子8+ 岡田(戸田中央総合病院RC) 4位
- ☆びわ湖レガッタ☆9月17日～18日
 中学生女子1× 元安(梓) 3位
 男子8+ 中村(眞) 黒田 武良(美) 宇野 大野 太田(俊) 元安(崇) 青木 尾崎(準) 3位
 杉藤(洋) 狩谷 中(俊) 安達 田中(彰) 佐々木(高) 鶴瀬 柴田 下田 予選2組4位
 女子KF60歳以上 太田(弘) 木村(祐) 上坂 小島 中出 優勝
- ☆全国市町村交流レガッタ☆9月24日～25日
 女子160歳以上の部 太田(弘) 武良(美) 木下 東(暢) 安藤 2位※エルゴリレー(1000m)による順位の決定
- ☆京都レガッタ☆9月25日
 男子1× 木村 敗者復活3組2位
 女子1× 西原 優勝
 マスターズ男子1× 安達 3位、今城 予選2組3位
 男子2× 須多 根岸 4位、井上(貴) 島田 6位、吉村 赤岸 敗者復活2組3位
 混成2× 黒田 三登 優勝
 男子8+ 坂本(春) 岡田 山口(将) 倉本 南條 西原 家村 吾郷 井原 優勝
 マスターズ男子KF 中村(眞) 宇野 伊庭 津村 松本(穂) 2位
- ☆栃木国体☆10月1日～4日
 成年女子1× 西原(京都府/プリントパック) 準優勝、山領(福岡県選抜) 3位
 成年男子4+ 椎名(群馬県選抜) 準決勝C組4位
 成年女子4×+ 三島(島根県選抜) 敗者復活B組3位
- ☆World Rowing Coastal Championships☆10月7日～9日
 CM2× 椎名 FianlB12位 総合29位
 CM4×+ 椎名 14位
 CMi×2× 山領 16位
 CW4×+ 山領 9位
- ☆World Rowing Beach sprint Final☆10月14日～16日
 CW1× 山領 TimeTrial 2 11位
 CMi×2× 山領 ベスト16
- ☆TOKYO2020開催記念レガッタ☆10月16日
 女子8+50歳以上 武良(美) 三登 東(暢) 中出 木下 太田(弘) 中西 安藤 上坂 1位
- ☆Head Of The Seta☆11月12日～13日
 男子1×選考 岡田(滋賀レイクスターズ) 2位
 女子1×選考 西原(プリントパック) 1位

男子1×一般 山口(将) 7位
女子1×一般 山領 1位
男子1×30歳代 家村 1位
女子1×40歳代 武良(美) 1位
男子1×60歳代 青木 4位、植田5位、尾崎(準)6位
女子1×60歳代 中出 1位
男子1×70歳代 安達 1位
女子1×70歳代 太田(弘) 1位
男子4+ 宇野 井上(貴) 島田 伊庭 吉村 7位
男子4× 家村(京都大学) 1位
男子2- 須多 根岸 4位
女子2× 山領(彩夏に捕まった山領) 1位

☆ツール・ド・おきなわ☆11月13日

市民レース100km 南條 8位

☆本明川スポーツフェスタ☆11月20日

4×+ 太田(弘) 安達 尾崎(準) 尾崎(幸) 長瀬

マスターズの招待レースで九州ローイングクラブ(4+)と異種マッチレースに出漕

[2] 2022年度会計報告

1.2022年度「特定非営利活動に係わる事業会計」活動計算書 (単位：円)

令和4年度「特定非営利活動に係わる事業会計」活動計算書

(H23NPO会計基準で表示)

科 目	令和4年1月1日から令和4年12月31日まで				
	予算額		決算額		差異
I 経常収入の部					
1 会費、入会金収入					
会費	5,400,000		5,310,000		90,000
入会金	300,000	5,700,000	360,000	5,670,000	△ 60,000
2 受取寄付金					
賛助金(個人)	200,000		420,000		△ 220,000
賛助金(法人)	200,000		900,000		△ 700,000
一般寄付金(その他)	0	400,000	162,000	1,482,000	△ 162,000
3 受取助成金					
受取助成金・補助金	200,000	200,000	1,400,000	1,400,000	△ 1,200,000
4 事業収入					
1 びわこ市民レガッタ	890,000		749,896		140,104
2 Head Of The Seta	1,100,000		1,233,700		△ 133,700
3 市民教室(体験教室)	160,000		78,500		81,500
4 クラブコーチ事業	400,000		704,000		△ 304,000
5 しがスポーツ大使事業	0	2,550,000	62,500	2,828,596	△ 62,500
3 その他収益					
受取利息	0		408		△ 408
雑収益	0	0	0	408	0
経常収入合計		8,850,000		11,381,004	△ 2,531,004
II 経常支出の部					
1 事業費					
1 びわこ市民レガッタ	690,000		620,813		69,187
2 Head Of The Seta	600,000		452,903		147,097
3 市民教室(体験教室)	10,000		2,610		7,390
4 クラブコーチ事業	500,000		502,640		△ 2,640
5 しがスポーツ大使事業	0	1,800,000	0	1,578,966	221,034
2 管理費(倶楽部運営、管理諸費用)					
給料手当	700,000		649,450		50,550
レクリエーション費	50,000		0		50,000
会誌発行費	250,000		199,526		50,474
会議費	15,000		0		15,000
交際費	5,000		5,000		0
通信運搬費	70,000		19,084		50,916
消耗品費	600,000		838,580		△ 238,580
保全費	450,000		254,438		195,562
施設費	800,000		181,745		618,255
水道光熱費	550,000		652,660		△ 102,660
減価償却費	3,425,000		3,452,889		△ 27,889
保険料	200,000		155,572		44,428
諸会費	10,000		9,200		800
租税公課	720,000		717,100		2,900
支払手数料	10,000		18,680		△ 8,680
広告費	20,000		0		20,000
強化費	400,000		56,724		343,276
選手登録費	70,000		65,000		5,000
雑費	100,000		0		100,000
経常支出合計		10,245,000		8,854,614	1,390,386
III 経常外収益の部		0		0	0
IV 経常外費用の部					
固定資産除却損			90,681		△ 90,681
経常外増減額		0		90,681	90,681
経理区分振替額					
収益会計より繰入			0	0	0
税引前当期正味財産増減額		△ 1,395,000		2,435,709	△ 3,921,390
前期繰越正味財産		94,336,764		94,336,764	
当期正味財産合計		92,941,764		96,772,473	△ 3,830,709

※別紙参照

令和4年度「特定非営利活動に係わる事業会計」貸借対照表

令和4年12月31日現在

特定非営利活動法人 瀬田漕艇倶楽部

(単位：円)

科 目	金 額	
I 資産の部		
1 流動資産		
現金	225,760	
普通預金	28,014,235	
流動資産 合計		28,239,995
2 固定資産		
建物	26,726,650	
構築物	2,150,564	
艇	60,502	
備品	150,661	
土地	24,000,000	
一括償却資産	133,334	
固定資産 合計		53,221,711
3 投資その他の資産		
艇庫積立金	15,033,395	
長期前払費用	356,412	
投資その他の資産 合計		15,389,807
資産合計		96,851,513
II 負債の部		
1 流動負債		
未払金	41,666	
預り金(源泉所得税)	25,524	
預り保険料	1,850	
仮受金	10,000	
流動負債 合計		79,040
2 固定負債		
負債合計		0
		79,040
III 正味財産の部		
前期繰越正味財産額		94,336,764
当期正味財産増加額		2,435,709
正味財産 合計		96,772,473
負債及び正味財産 合計		96,851,513

令和4年度「収益事業会計」活動計算書

令和4年1月1日から令和4年12月31日まで

特定非営利活動法人 瀬田漕艇倶楽部
(単位：円)

科 目	金 額	
I 経常収益の部		
1 事業収益		
販売、サービス事業収入	907,754	907,754
2 その他の収益		
預金利息 他	86	86
経常収益 計		907,840
II 経常費用の部		
1 事業費		
事業収益原価	668,126	668,126
2 管理費		
雑給	0	
事務通信費	92,009	
その他の経費	1,980	93,989
経常費用 計		762,115
当期経常増減額		145,725
経理区分振替額		
収益事業会計振替額		0
税引前当期正味財産増減額		145,725
法人税、住民税及び事業税		72,200
当期正味財産増加額		73,525
前期繰越正味財産額		5,173,294
次期繰越正味財産額		5,246,819

※5.収益事業会計報告 参照

令和4年度「収益事業会計」貸借対照表

令和4年12月31日現在

特定非営利活動法人 瀬田漕艇倶楽部
(単位：円)

科 目	金 額		
I 資産の部			
1 流動資産			
現金	184,317		
普通預金	5,027,192		
在庫商品	107,510		
流動資産 合計		5,319,019	
資産 合計			5,319,019
II 負債の部			
1 流動負債			
未払法人税等	72,200		
流動負債 合計		72,200	
負債 合計			72,200
III 正味財産の部			
前期繰越正味財産額		5,173,294	
当期正味財産増加額		73,525	
正味財産 合計			5,246,819
負債及び正味財産 合計			5,319,019

5. 収益事業会計報告 (単位：円)

2023年1月23日

収益事業会計報告

(2022年1月1日～2022年12月31日)

総括

前年度繰越

(円)	
現預金	5,173,294
売掛金・立替金	0
在庫	95,990
固定資産	0
NPO事業勘定	0
前受金	0
未払法人税等	△ 72,200
純資産	5,197,084

今年度
収益活動

今年度決算

(円)	
現預金	5,211,509
売掛金・立替金	0
在庫	107,510
固定資産	0
NPO事業勘定	0
前受金	0
未払法人税等	△ 72,200
純資産	5,246,819

次年度
収益活動

明細

品名	原価	売上金	粗利益		
			予算	実績	差額
ニールセンケラーマン社製品	646,646	740,760	0	94,114	△ 94,114
冊子	780	2,100	0	1,320	△ 1,320
アパレル	20,700	25,000	0	4,300	△ 4,300
ライブ配信料	0	90,000	0	90,000	△ 90,000
エルゴ	0	0	0	0	0
合計	668,126	857,860	0	189,734	△ 189,734

雑収入(自販機)	0	8,514	0	8,514	△ 8,514
預金利息	0	13	0	13	△ 13
テント場所受取手数料	0	30,000	0	30,000	△ 30,000
送料差額収入	0	1,380	0	1,380	△ 1,380
施設利用料	0	10,000	0	10,000	△ 10,000
その他雑収入	0	73	0	73	△ 73
合計	0	49,980	0	49,980	△ 49,980

共通経費	予算	実績
事務通信費		92,009
その他の経費		1,980
棚卸廃棄損	0	0
合計	0	93,989

特定非営利活動事業会計繰入金		0
未払法人税等(当期分)	72,200	72,200

当期収入額	907,840	
売上原価	668,126	
	239,714	粗利益
共通経費	93,989	
	145,725	税引前利益
法人税額	72,200	
	73,525	当期利益
特定非営利活動事業会計繰入金	0	
	73,525	収支差額

6. 2022年度 財産目録

令和4年度 財産目録

令和4年12月31日現在

特定非営利活動法人 瀬田漕艇倶楽部
(単位 : 円)

科 目 ・ 摘 要	金 額		
I 資産の部			
1 流動資産			
現金・預金			
現金 (一般)	225,760		
現金 (収益)	184,317		
普通預金 滋賀銀行 石山支店 No.198794 (一般)	9,564,300		
普通預金 滋賀銀行 瀬田支店 No.522662 (特別)	2,996,133		
普通預金 滋賀銀行 瀬田支店 No.521114 (一般)	91,709		
普通預金 滋賀銀行 石山支店 No.198783 (収益)	973,953		
郵便貯金 普通通帳 (一般)	4,143,722		
郵便貯金 大会受付 (一般)	4,403,793		
郵便貯金 会費 (一般)	6,814,578		
郵便貯金 事業別会計 (一般)	0		
郵便貯金 (収益)	4,053,239		
在庫商品(販売商品在庫高)	107,510		
流動資産 合計		33,559,014	
2 固定資産			
固定資産			
艇庫積立金	15,033,395		
建物	26,726,650		
構築物	2,150,564		
艇	60,502		
備品	150,661		
土地	24,000,000		
一括償却資産	133,334		
長期前払費用(火災保険料他)	356,412		
固定資産 合計		68,611,518	
資産合計			102,170,532
II 負債の部			
未払金	41,666		
未払法人税等	72,200		
預り金(源泉所得税)	25,524		
預り保険料	1,850		
借入金	10,000		
流動負債 合計		151,240	
負債合計			151,240
正味財産			102,019,292

[3] 2022年度監査報告

監事 竹内英子

新型コロナウイルス感染禍により倶楽部の活動に現在も少なからず影響はあるが、レースへの出場、三大事業として一部のイベント実施、毎月の全員集合日での作業等がコロナ前と同じように開催できた。創部時代に会員が集合日に集まり、手作りで倶楽部を築いていった時の思いを次世代に引き継ぎ残せていけるように感じた。

理想としては一人一役の理念が周知徹底され、倶楽部に来た時より帰る時がさらに美しくなるよう施設を整美していただきたい。

★生涯スポーツについて

生涯にわたって心身の健康増進の為にローイングを続ける事はとても良い運動であると思う。特に水上でのローイング運動は身体を動かす喜びだけでなく、自然の中で自由に身体を動かせる楽しさがあるので、更に倶楽部の普及活動を進めていただきたい。他方、初心者や高齢者の多い倶楽部であるので季節の気温・天候も十分考慮して、安全への気配りを今後も続けていただきたい。

★競技活動について

今年度は全日本選手権や国体で活躍する選手が現れてきたが、優れた選手を倶楽部内で育成できる体制づくりが急務である。若い会員が入会した時の気持ちを持ち続けられるようなサポート体制が構築できると、多くの会員が退会しないで続けられるのではないだろうか。今後の倶楽部の競技活動だけでなく倶楽部のリーダー育成にも注力していただきたい。

★財政について

倶楽部の収入は会費収入が大きなウエイトを占めるが、収入源が物品販売の収益事業から三大事業へと変わり収入の大きな柱となったが、新型コロナウイルス禍により事業を中止した影響で収入が減った。これに対し代表理事が中心となり新しく法人賛助会員を増やす取り組みをすることで収入を増やす事ができた。他の施策として、長年課題であった艇持ち込み費用を徴収して収入を増やしたわけだが、この点については増加した共有艇の今後の修繕費や三つの建屋の修繕費も考えていただきたい。

倶楽部の会員名簿を見ていると今も長く会員でいて下さる人の顔が浮かんでくる。仕事の関係や家庭事情で倶楽部に来ることが出来なくなった方々が、今も会員や賛助会員として我々を支援してくださっていることに感謝します。同時に、瀬田漕艇倶楽部は賛助会員にとって応援したくなる組織であり、ローイングを普及させていける集団であってほしいと強く願う。

退会された会員もいつか戻ってこられて、倶楽部で再びオールを握り活躍していただけることを願っています。

監事(会計) 今村拓也

1 コロナ禍を語らずに済む1年ではありませんでしたが、昨年度より多くのイベントを実行でき、またレースへの参加もできました。まずはここを皆で喜びたいと思います。そして、それは事業収益にも反映し、一定の収益を残すことにもつながりました。特にヘッドオブセタは、日本代表選考会を共催できたことにより注目度も高まり、多くのクルーの参加につながりました。びわこ市民レガッタは残念ながら台風の影響で中止を余儀なくされましたが、返金を半額に抑えることができ、クラブ収支としてはプラスになりました。どちらにも、準備に多くの時間を費やしていただいた実行委員の皆さんに敬意を表したいと思います。

まだまだコロナは未だ先が見えない状況ではありますが、引き続き力を合わせて前進していければと思います。今後は周年行事開催に向け、大きな出費も予想されますが、どのように資金を集めていくのかということところが最大の課題になろうかと思っています。クラブ員全員で知恵を出し合って進んでいきましょう。

2 前任者からの引継事項でありました計算書類の記載について一定の道筋がつき2023年度より改善の方向性が見えました。まだ課題は残りますが、引き続き一つずつクリアしていければと思います。

[4] 2023年度役員（2022年改選、任期2年）

NPO法人瀬田漕艇倶楽部 理事および監事

理事（代表）	田中 彰
理事（専務）	狩谷 悟史
理事（専務・50周年準備）	坂本 春奈
理事（保全）	中村 眞
理事（強化）	山口 将平
理事（広報）	木村 俊紀
理事（施設）	中 俊久
理事（収益）	黒田 士朗
理事（普及育成・安全）	武良 美恵
理事（会計・財務）	今城 律雄
監事(事業)	竹内 英子
監事(会計)	今村 拓也

実行委員長及び審判長

びわこ市民レガッタ	中村 眞
Head Of The Seta	調整中
マシンローイング大会	猪飼 更紗
コーチセミナー	坂本 春奈
審判長	山崎 有紀

事務局

倶楽部事務担当	安藤 真由美・上坂 操
クラブ事業担当	調整中
社会貢献事業担当	鵜瀬 正樹
会計・財務担当	佐々木 真樹

あと4年で1977年に創設された瀬田漕艇倶楽部は50周年を迎えます。総合型地域スポーツクラブNPO法人としてこれからの時代にも私たちが日本中のお手本であり続けるために、また次世代に自信をもって倶楽部を残すために、本年度より50周年記念事業の実行委員会をスタートさせます。先人が構築してきた財産やノウハウを適切に引き継ぎながら、老若男女が笑顔で倶楽部の運営にかかわる仕組み作りを再構築する1年間に挑戦します。ご理解・ご協力の程お願いいたします。

[5]活動計画（案）

将来のあるべき姿

1. 全体 総合型地域スポーツクラブNPO法人のお手本として、また「チャンピオンクルーから日曜スカラーマド」という倶楽部設立の理念に基づき、各会員が世代を超えて充実した倶楽部ライフを満喫する体制の一層充実を目指します。そのためには時代に合わせて進化する姿勢を忘れずに、スポーツマン（ウーマン）シップのもと、会員や家族のみならず地域市民や国内外クラブとの交流の場としての機能を目指します。また中央競技団体とも連携も深めながら、競技推進だけでなく地域貢献・地域密着を実現するベースとなることを常に意識します。
2. 安全 受傷事故絶対ゼロ。
3. 保全 クラブの設備・備品はクラブ員全員の共有物(持ち物)である事をしっかりと認識し、各クラブ員が可能な範囲で整備・修理あるいは故障や不具合に対する予防措置を自然体で行うことができる体制を目指す。
4. 施設 会員が自然と交流できる空間作り、近隣からも愛される環境整備、国内外に評価される施設作り。
5. 事務 効率的な事務業務。組織として運営できる体制にする。
6. 特別 びわこ市民レガッタ、Head Of The Seta、マシンローイング大会を運営し、150万円の利益を得る。
また、行政や地域諸団体とも連携し、大津・瀬田川の風物詩となるイベントに発展させる。
7. 普及 季節毎に水上スポーツの普及イベントを開催する。
8. 収益 年間100万円の利益を得る。
9. 財務 艇購入・艇庫改修のための積立を毎年確保する。
10. 広報 月一回の会報発行を継続。わかりやすいシンプルなホームページを提供。
11. 活動 (1)60人以上のアクティブメンバー(月に4回以上倶楽部に来る)が活動している。
(2)ボート常任コーチの設置とともに、ボート全日本選手権最終日に残る。
(3)一般市民が水上スポーツに触れ合う機会を提供する。

2023年度の具体的な活動計画

1. 全体 倶楽部の理念に沿って創立50周年記念事業の実行委員会をスタートさせる。特にFurukawaHouseを始めとした倶楽部施設の再編を検討し、倶楽部施設の近未来像を会員一丸となって作り上げる。また世代を超えた会員間の交流や他団体との交流を一層活発化し、昨年は実現できなかった若い世代の新規入会、および選手（シニアチーム）の充実を全力で目指す。新たな事業計画や倶楽部運営体制についても積極的なブラッシュアップを進め、財務関係では昨年に引き続き法人賛助・賛助会員の拡大策を目指すなど、将来を見据えた財務基盤を再構築する。
2. 安全 (1)安全規則の随時見直し（初版2005年）。
(2)安全講習会実施、沈回復の練習会の実施。
(3)インシデント・アクシデントレポート作成の推進。
3. 保全 クラブの設備・備品はクラブ員全員の持ち物であるということをあらためて認識してもらい、整理整頓・整備・修理が皆で行えるような仕組みづくり・環境づくり・情報共有の在り方を模索する。
4. 施設 老朽化した所の対応、使い勝手を見直した修繕計画と備品購入計画。
5. 事務 各担当者との連携による円滑な事務作業。事務局のあり方検討とより良い倶楽部運営への貢献策
6. 特別 びわこ市民レガッタの参加者100クルー(500人)以上。地元企業、自治体、自治会から募る。Head Of The Setaの参加者600人以上。各ボート団体への個別交渉。
7. 普及 ボート・ドラゴンボート・カヌーの体験教室をクラブ全体で運営し、年200人を目標とする。新たな普及活動を検討・実行していく。
8. 収益 倶楽部独自の施策にて年間50万の収益確保に取り組む。
新たな収益財源確保に向けて知恵を募る。
9. 財務 会計フローの整理・定着化。各理事との連携を強化する。
10. 広報 月一回の確実な会報発行。
11. 活動 倶楽部運営収支96万円、NPO事業収支290万円、収益事業収支20万円の計310万円の現金収支を確保するため、各方面での工夫だけでなく新たな施策を計画・実行する。
選手チームは全日本選手権でのメダル獲得を目標としながらも、次世代を担う選手層のメンバー獲得にも取り組む。杉藤コーチの指導のもと、競技力強化、魅力ある選手チーム作りを一層

推進する。また各種コーチセミナーや、地域および他団体との交流の機会を積極的に展開する。

[6] 2023年度NPO法人瀬田漕艇倶楽部 年間事業計画 (案)

月	日	事業名	大会日程
1	29 (日)	全員集合日	初漕会(1/2)
2	26 (日)	定期総会 全員集合日	2023 バーチャルインドアローイング大会(2/4) 大津市民駅伝 (2/5)
3	5 (日) 27 (日)	全員集合日 全員集合日	全国高等学校選抜ボート大会 (3/19-21)
4	23 (日)	ドラゴンボート体験 (セタシジミ祭) 全員集合日	中日本レガッタ(4/21-23) 西日本選手権(未定)
5	3 (水) 28 (日)	朝日レガッタコーチセミナー 全員集合日	朝日レガッタ (5/3-6) 京都府高校総体(5/20) 全日本選手権(5/18-21) 滋賀県中学校春季総体 (5/18) 大津市民レガッタ(5/14) 滋賀県高校春季総体 (5/27-28) 大阪シティーレガッタ (未定)
6	25 (日)	全員集合日	全日本マスターズレガッタ(6/3-4) 近畿高校ボート選手権(未定) 滋賀県国体予選・県民体育大会 (6/17) 関西選手権競漕大会中学の部(6/16-17) 京都ボート選手権兼国体予選 (6/17-18) 全日本社会人選手権(6/24-25) 大阪府国体予選
7	23 (日)	琵琶湖一斉清掃 びわこ市民レガッタ2023 事前練習会 全員集合日	関西選手権競漕大会 (未定) 滋賀県中学夏季総体 (7/1-2) 関西学生新人レガッタ(7/8-9) 全日本中学選手権(7/22-23) 全日本高等学校選手権競漕大会(7/28-31) 国体近畿ブロック ボート競技
8	27 (日)	びわこ市民レガッタ2023 事前練習会 全員集合日	滋賀県ジュニア選手権 (8/18-20) びわ湖レガッタ(8/26-27)
9	24 (日)	全員集合日	全日本大学選手権大会(9/6-10) オックスフォード盾レガッタ(9/9-10) 京都府高校ボート選手権(9/15-16) 国体ボート競技会(9/21-24) びわこペーロン大会(9/22-23) 京都レガッタ(9/30-10/1) 全国市町村交流レガッタ (未定)
10	8(日) 22 (日)	びわこ市民レガッタ2023 全員集合日	びわこ市民レガッタ (10/8) TOKYO2020開催記念レガッタ(10/29) 中学秋季総体(10/20) 関西カヌースプリント選手権(10/21-22) 滋賀県高体連秋季大会 (10/21-22) 全日本新人選手権(10/13-15)
11	11(土)-12(日) 26 (日)	Head Of The Seta 2023 全員集合日	関西学生秋季選手権(11/初旬) Head Of The Seta 2023(11/11-12) Head of The Tsubata/ Jinzu Head of The ARA ジャパンレディースレガッタ
12	24 (日)	クリスマスパーティー 全員集合日	滋賀・京都ボート協会安全講習会

初心者ボート体験教室 : 5~11月第2,4日曜日10:00~ アダルトチーム練習会 : 毎週土日 07:45~

上記日程は変更する場合があります。変更の場合は会報およびメーリングリストにて連絡します。

[7] 2023年度予算（案）

2023年度「特定非営利活動に係わる事業会計」活動予算（案）

まずは2018年度以来の黒字予算を立案することが出来たことは、各会員のご尽力の賜物であり心より感謝したい。新年度予算では会費および寄付金等収入696万円、事業収入269万円、管理費790万円、事業支出173万円と算出した。

既述したとおりNPO事業経常収益は黒字予算となり減価償却費を289万円とした。向こう4年間で50周年事業への資金を確保するために、本年度はキャッシュフローベースで300万円以上の上積みを目指したい。

その上で昨年から懸案のAnex外壁塗装や、船台修理を全体の収支状況から判断しつつ計画したい。また本館の改修案については50周年事業とも総合的に検討しながら慎重に実施計画を作成したい。

なお本年度の予算案は

- ① 市民レガッタ、Headといった倶楽部事業を開催する予定での予算であり、コロナウィルの感染状況や悪天候の影響で開催が出来ない時は赤字要因となる。
- ② ここ数年にわたるコロナ禍による会員数の減少も懸案の一つと考えている。安定運営のための会員確保はもちろんだが、今後一層の効率的な予算の活用だけでなく支出の減少も図りたい。収入増のためのアイデアや、知恵を出して欲しい
- ③ 50周年記念事業については各世代からの事業案を挙げて頂き、その目標に向けての資金確保を図ってきたい。

2023年度「特定非営利活動に係わる事業会計」収支予算(案)

特定非営利活動法人 瀬田漕艇倶楽部

科 目	2023年予算案
(資金収支の部)	
I 経常収入の部	
1 会費、入会金収入	
会費	5,300,000
入会金	360,000
	5,660,000
2 その他収入	
賛助金	1,250,000
一般寄付金	50,000
収益事業活動収入繰入金	
預金利息	
雑収入	
	1,300,000
3 事業収入	
びわこ市民レガッタ	870,000
Head Of The Seta	1,000,000
体験教室	100,000
クラブコーチ事業	720,000
	2,690,000
経常収入合計	9,650,000

II 経常支出の部		
1 管理費(倶楽部運営、管理諸費用)		
給料手当	700,000	
レクレーション費	30,000	
会議経費	10,000	
交際費	5,000	
通信運搬費	70,000	
消耗費	600,000	
保全費	500,000	
施設費	800,000	
光熱費	660,000	
減価償却	2,891,364	
保険料	200,000	
租税公課	720,000	
支払手数料	20,000	
広告費	20,000	
選手登録費	70,000	
強化普及費	270,000	
漕艇通信発行費	230,000	
諸会費	10,000	
雑費	100,000	
		7,906,364
2 事業費		
びわこ市民レガッタ	720,000	
Head Of The Seta	490,000	
体験教室	20,000	
クラブコーチ事業	500,000	
		1,730,000
経常費用 計		9,636,364
経常利益		13,636

クラブコーチング目標と収支予算（案）

クラブコーチ事業として支出（コーチ報酬）50万円を計画する。週1回の定期的な選手チームへの指導体制だけでなく、将来的に選手チームに加入する若い世代への接点を作ることに挑戦したい。具体的には毎週1回の測定会へクラブ員の誰もが参加できる仕組みをトライアル的に導入し、各会員の現時点の競技レベルを客観化する機会を設ける。またコーチの全日本級の大会には引き続きサポートを実施する。（大会での遠征帯同費等は、従来通り強化費として支出）

2023年度 収益事業計画（案）

1) アサヒレガッタ	12万円
2) その他	10万円
	計22万円

地域スポーツ文化の創造にチャレンジしています！

出会いを大切に、スポーツライフの充実に取り組み、自らの価値を高めます！